

10年の運動の教訓を新たな前進の力に

# 真の労働戦線統一をめざして



愛労連議長 阿部 精六

愛労連結成前夜は寝付かれないまま、早々に結成会場にむかいましたが、すでに会場では数人の方がこられて準備をはじめていました。

生木を裂くような、上からの反共と労使協調、選別排除の執拗な攻撃とたたかいながら迎えた、一九八九年十一月一七日。日本と愛知の新たな労働運動の前進を！ の決意を胸に、愛労連結成大会に結集した仲間たちの顔・顔……。まさに緊張に満ちたすばらしい船出となったことを、今でも鮮明に覚えています。

この一〇年、愛労連運動にご指導・ご援助を戴いた多くの労働組合や民主団体、そして学者・研究者や政党の皆さん、愛労連に結集するすべての労働組合と組合員のみなさんに心から感謝を申し上げます。

また、創生期の運動であり決して安易な道ではなかったこの一〇年、時には自信をなくしたこともあった私たちを励まし、支えて下さいました先輩組合員の方々や、ご家族の皆さんに重ねてお礼を申し上げます。

八八年八月、統一労組懇年次総会は、労働戦線をめぐる緊迫した情勢を分析し、「新しい階級的ナショナルセンター」の役割と課題（案）と「構成と運営の基本」（案）を提起し、全国に討論を呼び

かけました。これに応えて愛知統一労組懇は同年一二月、階級的ローカルセンター問題懇談会を開催し、「階級的ローカルセンター」(素案)を提示。これを受けて各組合での学習・討論を踏まえつつ、八九年六月に、一八単産・議長連名による愛知ローカルセンター結成準備会を発足させました。

「そして発足以降六回に及ぶ「準備会全体会議」の議論を経て、参加組合の確認、運営要綱及び活動方針、役員及び事務局体制、アピールなどを確認し結成の運びとなりました。

一方、連合(統一促進会)や連合を後押しする政府・財界は、「一国一ナショナルセンター」を歓迎し、天安門事件やベルリンの壁崩壊などを利用しつつ、職場や産別での分裂攻撃を強め、「全労連の存在を認めない」構えを取り続けました。

思えば、連合結成に「抱擁してまで歓迎」と持ち上げた政府・財界の、新たな日本労働運動の变质と弱体化を目論んだ大がかりな労働戦線の右翼的再編攻撃とのたたかいの連続でした。私たちのたたかいで「全労連無視」はさせないなど、一定の変化を作り出してきたとは言え、愛知県による地労委や各種委員会・審議会の労働者委員の特定の系統に偏った選任、労働組合基本調査のやり方などを見ても、基本的には、今なお全労連や反連合系組合の排除・無視の態度が貫かれていると言わざるを得ません。

いま、自民党政治の行き詰まりやバブル崩壊、不況の深刻さ、労働者の失業率や有効求人倍率の戦後最悪の状態、倒産・破産、自殺者の増大、教育荒廃や医療・年金制度の連続改悪、差し迫った介護制度の充実、戦争法の具体化阻止、加えて軒並み財政危機を抱える愛知県政はじめ地方政治の転換など、もはや一刻の猶予も許されない情勢のもとで一〇周年を迎えました。

それだけに愛労連は、この一〇周年を機に、小さくまとまるのではなく、すべての労働者を視野に文字通り「真の労働戦線統一の母体」として、また、統一戦線促進の要としての役割を追い求めつつ、輝く二一世紀の実現にむけて一層奮闘する決意です。

特に、当面する国民春闘やリストラ反対など、「一致する要求」での総対話・共同の取り組みや労働相談活動の強化、未組織労働者や失業している仲間たちとの連携、さらに愛知総行動などの国民的・県民的要求での共同行動の強化、参議院選挙や知事選挙・首長選挙に示された国政・地方政治転換の流れなど、これまでの運動の到達点や教訓を生かして頑張りたいと思います。